



第 412 号



平成 28 年 3 月 16 日  
発行 まこと幼稚園  
〒246-0022  
横浜市瀬谷区三ツ境 65  
045 (391) 2175

## まことの自然の中で育まれる情緒や感覚

園長 大多和 檀

先日、さくら・ばら・そら組と各学年最後の遠足に一緒に行って、しみじみ感じた事があります。それは、まことの子供達は本当によく自然に触れて遊べる、ということです。さくら組さんの、松の木クズ（肌色）と茶色の松葉で「園長先生きて！大人のケーキなの。」にはびっくり。ばら組さんは、身体ごと枯れ草の斜面で何度もゴロゴロ転がり登ってきては「疲れるなあ。」棒を杖にして、はじめは短い棒を使っていましたが、次々と長い棒を見つけて「これいいよ。」そら組さんは高低のある地形全てを満喫。いわゆる遊具など何もない、まこととはまた違う自然の中で一所懸命遊ぶ子供達を見て、“センス・オブ・ワンダー”の上遠恵子さんの訳文を思い出しました。一子供たちへの一番大切な贈り物は、美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見張る感性くセンス・オブ・ワンダーです。その感性を育むために子供と一緒に、感覚の全てを傾けて自然と触れ合いたしう。一

この本は 1991 年に出版されていますが、そこをさかのぼること 25 年前、今からだとちょうど 50 年前、大学二年生だった私に、生きるってどういうことか、を気付かせてくれた恩師周郷博先生の本の中で次のように紹介されていたのです。

### —知識や知恵を生み出す土壌—

私は、子供たちと、子供たちをどう育てるかに心を砕く親たちのために“感じる”ということが“知る”ことよりずっとずっと大切なものだということを心から信じています。もしも、事実というものが、後になって知識や知恵というものを生み出してくる種子だとすれば、情緒や感覚が捉える様々な印象は、そこで種子が育つべき豊穡な土壌だということになります。

幼少時代というものは、この土壌をよく耕し用意する時期なのです。ひとたび、これらの情緒（感じる心）が呼び覚まされる—美しいものがわかり、新しい未知なものに驚き畏敬の念を持ち、共感と憐れみ、讚美と愛の心が目覚めるなら、それからあとで、私たちは、そうして情緒が捉えたものについての知識を教えることが出来るのです。ひとたび子供たちがそういうことを自分で見つけ出すことが出来れば、それは永続的な意味を持ったものになります。

子供たちに、その用意が出来ていないまま何かと教え込むよりも、子供たちに知ろうと欲する心を持つような道をつけてやるほうが、はるかに大切なことです。

レイチェル・カーソンによる（周郷博著「母と子の詩集」より・ナミセン—大多和）

幼児期には“知る”ことより“感じる”ことがずっとずっと大切なことです、とはいっても目には見えにくいものです。そこを理解しようといつも寄り添って下さるまことの保護者の方々、何か疑問が生じた時には「先生、ちょっといいですか」と声をかけて下さるまことの保護者の方々、新ばら、新そらになりましてどうぞよろしくお願い致します。これは、まこと幼稚園の根源の思想のひとつです。私たちも、目に見えにくいものをなんとか伝える努力を続けます。

そら組の保護者の皆様。役員さんはじめ、夕涼み会・バザー・運動会・さらに様々なボランティア等々で、感謝してもし尽くせないほどお世話になりました。ありがとうございました。ずっとずっとお元気で。